

## 事業所における自己評価結果

事業所名 児童通所支援BambleGYM恵庭

公表日 令和7年11月21日

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8	0	休憩スペースと体を動かすスペースを分けており、活動をする際は適切なスペースを確保できている。適切になるよう注意して人数を分けている。ホールと休憩室が広めに設定されている。	児童の体も大きくなり、休憩スペースはこれ以上の人数だと狭く感じる。現状を維持し、活動の制限がかからないよう工夫する。場所を取らないよう玩具の整理整頓をする。
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	2	職員を多めに配置することで、一人一人に手厚い支援を提供している。無理のない程度で利用人数を決めている。	職員数は足りている。活動内容によって職員が偏らないよう全員が意識する。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8	0	ホール、休憩室、相談室などわかりやすい構造になっている。絵カード等を使用し、視覚で分かりやすいように配慮している。	玄関先やホール内には段差がある。今のところ怪我もなく過ごしているが、低年齢や身体不自由な子が今後利用される場合、その状況に応じて検討が必要。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	日々の清掃に加え、1週間に一度の掃除の日を決め徹底している。ホールでは体を動かし、休憩室ではゆっくり過ごせる環境を提供している。	施設内はホコリや汚れが溜まりやすいため、日々の掃除に加え、定期的に清掃日を定めて日々の清掃で行き届かない箇所の清掃も行う。
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	休憩室や個室が自由に使えるようになっている。集中して学習したい子やあまり大人數が得意ではない児童に対して、休憩室や相談室を使い、個別対応している。	ゆっくり休める場所がない。
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	2	気軽に話し合える場を設け、意見を出し合っている。日々の朝礼で振り返りや目標を話し合っている。	多くの職員から意見を聞き取り、別の視点からの意見を積極的に取り入れていく。
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	避難訓練の実施報告や懇親会の開催など前年度の保護者評価を基に改善を行った。評価表の他、懇親会を開催し保護者の意向等を聞く機会を設けた。	公式LINEやインスタグラムを活用し、日々の支援内容を把握してもらう。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	2	朝礼や会議棟でそれぞれの意見を出し合っている。年に一度、個別面談を予定しているが、申し出があれば適宜対応している。	意見や回答がまとまらないこともあるが、他事業所や関係機関から情報を収集し、知識を高める必要がある。より一層の話し合いが必要。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	3		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内などで研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	事業所内で定期的に研修を行っている。講習会等の情報発信を行っており、参加した方からの情報共有を事業所内で行っている。	引き続き様々な研修への参加の機会を設ける。
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0	考案してプログラム作成を行っている。	
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	8	0	日頃から家庭での様子を共有し、面談時に詳しく聞き取りを行っている。	今後も家庭や事業所での様子の共有が必要。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0	会議には数名の職員が参加し、意見交換をしている。	専門職がいないため、支援内容によっては少々力足りない部分がある。
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	5	3	いつでも閲覧できるようわかりやすくファイルに編纂している。全員が把握して支援に取り組めるよう、話し合いや振り返り等を行なっている。	一人一人の支援計画をしっかり把握し、支援する必要がある
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	各種検査結果を共有していただけるご家庭もあり、支援に活用している。児童一人ひとりの時間を大切にし、インフォーマルな部分から変化等、意識して関わっている。	各種検査結果を保護者と職員で共有できていないこともあるため、できる限り検査結果を共有していただき、今後の支援に活かしたい。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0	話し合いの場を設けて設定し、わかりやすく、細かく記載している。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8	0	話し合いの場を設けて設定し、わかりやすく、細かく記載している。	周囲の協力を得て、安心安全に行う。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	子どもたちが楽しめるよう、体操は日々ローテーションで行っており、マンネリ化しないよう工夫を取り入れている。	市の情報やSNS等で近隣で開催されるイベント情報を収集し、子どもたちが楽しめる活動を提供する。
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0	個別活動では専門的な支援を行い、集団活動も混ぜた支援を行えるよう計画を作成している。特に低年齢の場合には職員が主となり、集団活動や個別活動を展開している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	朝礼で細かな打ち合わせを行ってチームで連携して行っている。	朝から子どもがいる場合は、打合せが十分にできていない。
障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	3	翌日の朝礼で職員間で振り返りを行い反省や情報共有をしている。	朝から子どもがいる場合は全員での打合せや振り返りは難しいが、少人数でも行う時間を設ける 休みの職員への引き継ぎがなっていない事があるため、職員会議等で振り返って話し合う必要がある。
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0	連絡帳や日報、業務日誌で記録をとっている。	業務日誌に記載のない子どももある。会議等で全児童についての様子や変化を話し合いたい。
	23 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0	適宜対応している。	
	24 放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	8	0	基本活動を軸として支援計画を作っている。	
	25 子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	活動を通して、選ぶ、自分で考える、思いを伝えるなど、たくさんの経験を積み重ね、表現力が養われるよう工夫を取り入れている。	
地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	26 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0	児童発達支援管理責任者や支援員が参加している。	人員に余裕がある場合は、複数名で参加し違う視点からの意見を述べたい。 小学生以上の子ども達の担当者会議の機会が少ないため、必要に応じて関係機関に連絡し開催する。
	27 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7	1	状況に応じて連携を取り、それぞれの様子等を把握して支援にあたっている。	学校との連携が取りにくい。 必要性を感じたら担当者会議等を開催し、積極的に連携をとるべき。

関係機関や保護者との連携	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6	2	送迎時や電話等で必要に応じて適宜確認している。	トラブル時の初動が遅い。子ども達の安全を第一に考え、素早い対応が必要。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6	2	相談支援事業所とは情報共有ができているが、幼稚園等とは機会がない。	幼稚園等の就学前に通っていた施設と情報共有する機会はないが、必要に応じて情報共有を行いたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			※該当者なし	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパー・バイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7	1	密に連携を取っている。	より連携が必要。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6	2	公園等の屋外活動や公共施設の利用を積極的に取り入れ、地域交流の場を提供している。	他の子どもとの関わりが苦手な子はなかなか入っていないが、職員が介入し、遊びや関わりを提供する。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	5	2	児童発達支援管理責任者が参加している。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	送迎の際にその日の様子や最近の関わりについてお伝えし、家庭での様子も確認している。 また、その際の保護者の反応等も共有しあっている。	なかなか保護者に会えない家庭もあるため公式LINEも活用して様子を伝えるが、配信数は少ないため増やしていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	4	懇親会で話し合いの場を設けている。	保護者会等で研修会を開催したい 家族支援の研修を今後多く取り入れていきたい。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0	契約時に説明している。	
保護者への説明等	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0	年2回の面談でアセスメントを行い、確認している他、日々の送迎時等に聞き取っている。	低年齢だと本人の意思を確認できないこともあるが、児童の様子をしっかり把握し、保護者の意思もしっかり聞き取る
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0	わかりやすく記載し、必ず説明を行い同意していただいている。	支援計画内容をしっかり読み込んでいる親は少ないよう見えるため、面談等で話していきたい。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7	1	相談しやすい雰囲気作りを行い、適宜相談に応じ、スマーズに問題に対応できるよう職員全体で内容を共有している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	8	0	年に1～2回懇親会を設けている。	きょうだい同士の交流はない。今後、繋がりが広がるような会を開催したい。 懇親会は開催しているが、父母の会等は無いため検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0	朝礼等で職員間で話し合い、児童発達支援管理責任者を中心に対応できている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0	公式LINEやInstagramを用いて活動等を発信している。	SNSを活用し、こまめに活動内容を発信していきたい。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0	徹底して行っている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	3	5	絵カード等利用している。 視覚で分かりやすいように配慮している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8	0	地域で行われているお祭りに参加したり、児童館での交流を行っている。	地域住民の招待は難しく感じる。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル・緊急時対応マニュアル・防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0	ホームページにマニュアル等を載せる事により理解を深めている。また、訓練を行っている事をSNSを用いて書く家庭に知らせている。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	必要回数行っており、職員会議で改善点等について話し合っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7	1	事業所で与薬は基本行っていない。 家庭での服薬や既往歴は定期的に確認している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0	強いアレルギーの子はないが、食事の提供等で不安がある場合は適宜保護者に確認している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8	0		
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8	0		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0	何故そのような状況になったか、改善点は無いかと迅速に対応している。	再発防止の話し合いをしっかり行う。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	研修を行い、職員間でも話し合える機会をもっている。	事例検討を取り入れた研修を行う。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7	1		